福島県文化財調査報告書第70集

伊達西部条里遺構

発掘調査概報Ⅲ

1979年3月

福島県教育委員会

序　　文

福島県伊達郡の桑折・国見両町を中心とする地域には保存状態の極めて良好な条里遺構が存在しています。この遺構は古代における地積、収税の単位として成立し、今日まで引き継がれて来たもので文字通り大地に刻まれた歴史であります。

昭和50年以来当遺構周辺地区において県営ほ場整備事業（伊達西部地区）が施行されているために、事業実施前に発掘調査を行ない地下遺構の存否を確認いたして参りました。

本年度は4年次目に当り、桑折・国見両町内を主に調査し溝状遺構などを検出しております。その概要をまとめたものが本冊子であり、これが文化財の保護あるいは学術資料としてご活用願えれば幸いです。

最後になりましたが、本調査のために御指導・御協力下さった関係各位に心より感謝の意を表します。

昭和54年3月

福島県教育委員会

教育長　辺　見　栄之助

目　　次

序　　文
例　　言
Ⅰ　遺跡の環境……1
　(1)　遺跡の位置……1
　(2)　周辺の遺跡……2
Ⅱ　調査の経過……2
Ⅲ　調査の結果……3
　(1)　条里遺構……3
　(2)　その他の遺跡……7
Ⅳ　まとめ……10
図　　版

例　　言

1．本冊子は、県営ほ場整備事業伊達西部地区内における古代条里遺構発掘調査の概報である。

2．発掘調査は、福島県教育庁文化課が担当し、昭和53年6月19日～30日、10月2日～20日そして11月28日～12月1日の延28日間に亘り実施した。

3．本調査は国庫補助を受けて実施した。

4．調査実施に際しては、国見町、桑折町そして梁川町の各教育委員会、同じく三町の文化財保護審議会委員、そして福島農地事務所の関係各位の援助と適切な助言を得た。記して謝意を表する。

5．調査体制は次の通りである。

発掘担当者	福島県教育庁文化課　文化財主事	日下部　善　己
同　調査員	福島県教育庁文化課	鈴　木　實　夫
微地形調査員	東北大学理学部大学院地理学教室	木　庭　元　晴
地名・古地図等調査員	国見町文化財保護審議会委員	菊　池　利　雄

6．微地形及び地名・古地図等調査は上記2名に委託した。

7．本冊子の執筆・編集は、日下部善己、鈴木實夫が担当し、その文責は文末に示した。

I 遺跡の環境

(1) 遺跡の位置

伊達西部の条里遺構は伊達郡国見町、桑折町と伊達町、梁川町の水田面にその面影が見えるが、今年度の調査対象になったのは、国見町石母田地区[1]と桑折町谷地・上郡・下郡・伊達崎地区（以下谷地地区[2]）と梁川町東大枝字矢洗地区[3]である。

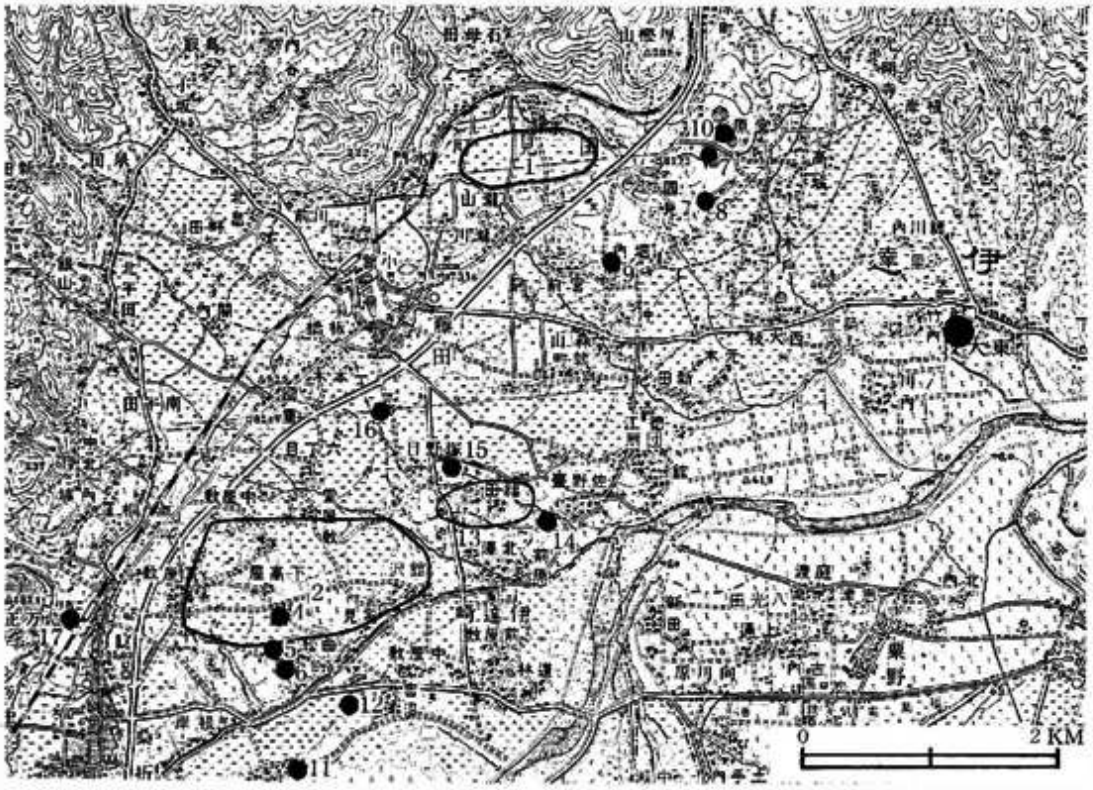
石母田地区は藤田の北、東北本線と国道4号線に挾まれた標高72～80mの洪積低地「藤田面」上の水田地帯で、石母田部落の中央を西沢川が流れ、この水田地帯の基幹水路となっている。

谷地地区は桑折町の東、六丁目の南に広がる標高68～78mの洪積低地で、伊達崎地区で阿武隈川によって形成された沖積低地に移る。条里遺構は洪積低地上の水田面に見られるが、伊達崎地区の沖積低地上にも何坪か見える。なお、この地区では条里遺構の調査とともに日暮[4]・壇の越[5]（下郡）・蝦夷塚遺跡[6]の試掘調査を行った。

南林正寺遺跡の範囲確認調査を行った矢洗地区は梁川町の西端、阿武隈川の西側に位置し、国見町西大枝地区と接している。この地域は上は港積低地区、下は沖積低地上の水田地帯に分れているが、南林正寺の調査は上下両面であった。

(2) 周辺の遺跡

厚樫山から東にのびる丘陵斜面上には涌水横穴群[7]・大木戸古墳群[8]・森山古墳群[9]等の古墳時代の遺跡が多く分布している。涌水横穴は大木戸の人工堰の崖面にあり、大小2基の横穴が確認されている。



第1図 遺跡の位置（○印）　（番号は本文中の遺跡番号に同じ）

大木戸古墳群は横穴群の南に位置する。かっては6基あったが、現在は円墳1基しか残っていない。森山古墳群は4基の円墳が確認されており、うち4号墳は石室の形態より7世紀後半に位置づけられている。また涌水横穴群の北にある堰際には8世紀前半に須恵器を生産した大木戸窯址群[108]がある。

谷地地区では、籾痕のついた土師器を出土した舟場遺跡[110]や上郡遺跡[112]、今回試掘調査した日暮・壇の越・蝦夷塚遺跡が分布している。また北方の国見町塚野目地区には主軸70mの前方後円墳八幡塚古墳を主墳とする塚野目古墳群[113]があり、現在7基の古墳が残っている。古墳群の西にも古墳時代中期の祭祀遺跡である反畑遺跡[114]や矢ノ目遺跡[115]や古墳時代前期の土師器を出土した南寺田遺跡[116]が分布している。桑折駅のすぐ西には縄文時代後期を中心とする二本木遺跡[107]があり、東北新幹線建設にともない今年度調査が行われた。

矢洗地区には縄文時代中期の集落址である林正寺遺跡があり、今回範囲確認調査された南林正寺遺跡と連続するものと考えられる。　　（鈴木　實夫）

II 調 査 の 経 過

昭和50年以来、今年度は第4年次目の調査にあたる。調査は3期に分けて行い、まず初めに国見町の石母田、次に桑折町谷地・上郡・下郡・伊達崎そして梁川町東大枝の各地区について実施した。主に条里区画想定線上にトレンチ(2m×10m) を設定し地下遺構の存否の確認に努めた。また、条里制施行のようすをより明確化するために付近の微地形及び地名・古地図等の調査を外部研究者に委託した。

6月19日～30日。石母田地区内に28本のトレンチを設定し調査を行い、他に現況写真、500分の1詳細図（福島農地事務所提供）なども作成した。発掘調査の結果3条の溝状遺構と旧畦畔を確認した。特に現水路の東側に旧水路（16および21トレンチ内）が検出され地表区画と地下遺構に若干のずれがあった。また、字番匠田付近では長地型地割かと思われる区画も確認できた。

10月2日～20日。桑折町内地区に50本のトレンチを設定し4条の溝状遺構を検出した。5・6・8トレンチのそれは条里関連と見られ、特に5・8トレンチのそれは条里区画と考えられる。また30トレンチでは条里想定線上に古い水田（畦畔）の一部が確認された。一方、期間中に日暮、壇ノ越、蝦夷塚各遺跡の試掘調査も併せて行った。

日暮遺跡には土器片が散布しているということで8本のトレンチ(160㎡) を設定し調査した結果、遺構・遺物ともに検出されず、水田拡張、耕作などによりすでに消失したものと思われる。壇ノ越遺跡の水田部分に8本のトレンチ(200㎡) を設定し調査した結果、42トレンチより竪穴状の遺構と溝を検出したが遺物はほとんど発見されなかった。この溝は近年のものであり、総じて遺物も少なく遺跡としての内容を十分に有していない。付近の果樹園には遺構残存の可能性があるが表採遺物はほとんどない。蝦夷塚遺跡にはかって古墳状のマウンドが存在したと伝えられ、10本のトレンチ(200㎡) を設定し調査した結果、溝状遺構を1条検出したのみであった。付近の畑地などには遺構の存在の可能性もあるが工事区より除外されている。なお、マウンド状のものが谷部に2基ほどあるが広域農道敷外になっているし、山林中にもマウンドが残っているという。

11月28日～12月1日。梁川町東大枝の南林正寺遺跡に15本のトレンチ(400㎡) を設定し調査を行っ

た。4および31トレンチより遺構が検出され、前者では2層下に柱穴、溝、土坑状の落ち込み、後者からは溝状の落ち込みが検出された。また、16・18・19トレンチでは表土下20～50cmほどに厚さ60cmに及ぶ遺物包含層を検出し、土錘や円盤状土製品、土器片（縄文時代中期～後期）が発見された。よって縄文時代中期～後期の遺跡（集落跡）であることが判明した。この地区は昭和54年度ほ場整備実施地区である。（日下部善己）

Ⅲ 調 査 の 結 果

(1) 条 里 遺 構

本年度条里遺構を確認調査した地域は国見町石母田と桑折町谷地区の二ヶ所である。その結果、石母田地区では溝3条、谷地周辺地区では溝4条と水田跡（旧畦畔）が検出された。

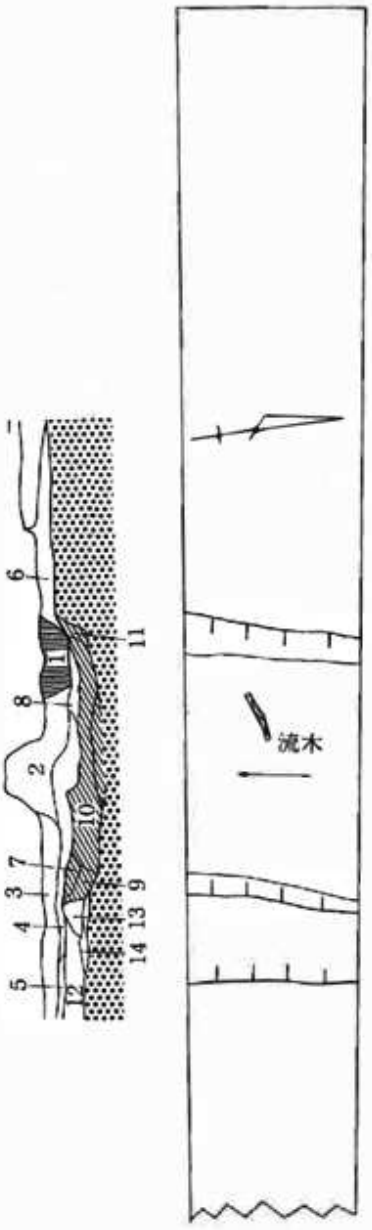
石母田地区の条里遺構は現況でも比較的坪形が復元できる所が多く残っている。また坪内に長地型のように見える所もある。これらの復元できる畦畔上や長地型と思われる坪にトレンチを総数27本設定したが、遺構を検出したのはきわめて少なく、4・5・16・21トレンチで溝や旧畦畔が検出されただけである。4トレンチは現水路が少し乱れている所に、その原因を探るため設置したもので、その結果南北に走る幅2.65mの溝が検出された。この溝は旧耕作土下の灰黄褐色粘土と黄色砂礫層を切ってつくられており、溝内には粒子がこまかい灰黄褐色土と径5～6cmの礫を多く含む黒色粘土層が堆積していた。16トレンチは坪形が乱れている所に坪割の南北線を確認するため設定したもので、現水路の東に幅3.1m、深さ約40cmの南北に走る溝を検出した。現水路は旧水路の両端上に位置するが、現水路中央と旧水路のそれの距離は約1mであった。この溝は粘土層を切ってつくられており、溝内には粘土と砂の混合土層と砂礫層が堆積していた。21トレンチは調査区の西南端に現水路の過去の流路に確認するために設定したもので、現水路の西側土手下、現水路に切られた南北に走る溝を検出した。切り合いによって幅は計測できないが深さ約1mを計り、溝内には灰黄褐色土と粘土と砂の混合した灰黒色土が堆積していた。また調査区東側に東西に走る畦畔を切るように設定した5トレンチでは、坪境と思われる段差が検出された。長地型を確認するために設定したトレンチでは遺構は検出されなかったが、長地型区画が現在まで継続して使用されたのであろう。

石母田地区から出土した遺物はきわめて少なく、16トレンチ溝内より土師器の糸切り底を有する杯や甕口縁部破片、須恵器甕、杯破片が若干と陶器片数点が出土した。また16トレンチの北より土師器、須恵器破片が20数点出土したが、すべて小片で摩滅がはげしいものである。21トレンチでは土師器破片1点、23トレンチでは須恵器破片1点が出土した。

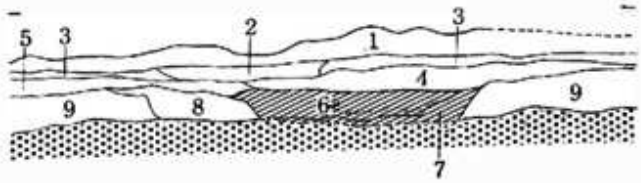
谷地地区は北側の一部に条里遺構の坪割が復元できるが、全体的には大きく乱れている地域である。北側の復元できる坪割線を基準として枡組をし、その想定線を中心に総数25本のトレンチを設定した。その結果、5・6・8トレンチで溝を30トレンチで旧土地割の畦畔と土地境を検出した。5トレンチの溝は幅2.05m、深さ35cmの南北に走るもので、溝内には灰黄褐色土と灰褐色土が堆積していた。8トレンチは5トレンチのほぼ一直線に南下した所に設定したもので、耕作土下に南北に走る幅2m、深さ25cmの溝を検出した。溝内には灰黒色土が堆積し、その層中に多量の炭水化物が入っていた。5

第2図　石母田地区トレンチ配置図

16トレンチ

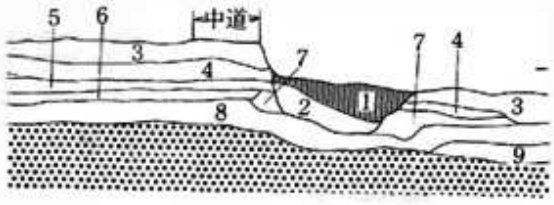


4トレンチ



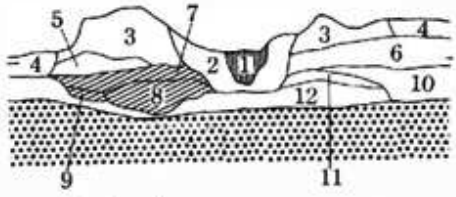
1．水田耕作土
2．青色粘土
3．旧耕作土
4．灰青色粘土
6．灰黄褐色土
7．黒色粘土
8．灰黄褐色粘土
9．黄色砂礫

5トレンチ



1．現水路
2．現水路堆積土
3．水田耕作土
4．旧耕作土
5．暗青茶褐色土
6．茶褐色土
7．暗黄褐色土
8．黄褐色土
9．淡青色土

21トレンチ



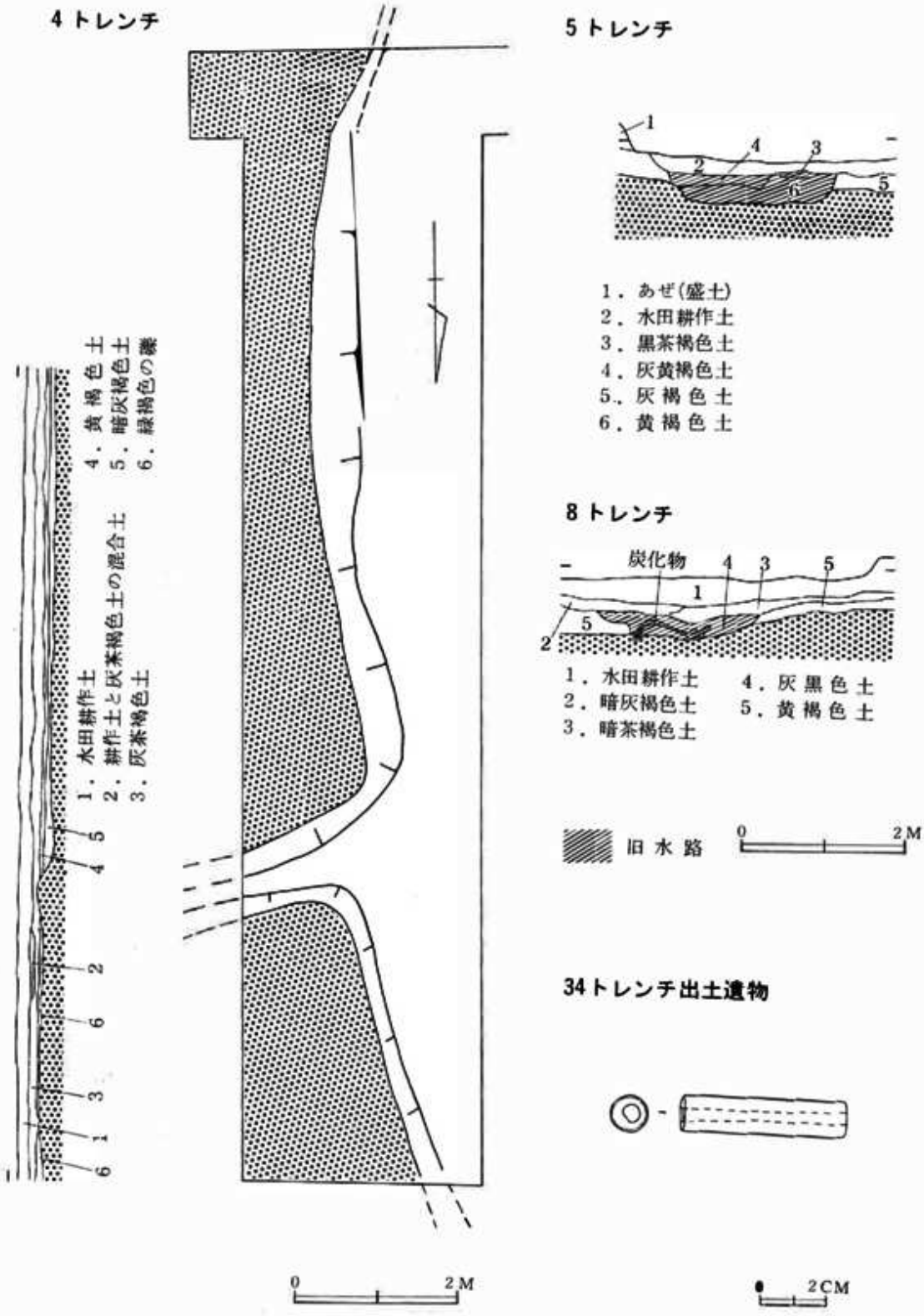
1．現水路
2．現水路の泥
3．盛土
4．水田耕作土
5．灰褐色土
6．旧水田耕作土
7．灰黄褐色土
8．灰黒色土
9．灰青褐色土
10．淡黄褐色土
11．灰黄褐色土
12．黄褐色土

1．現水路
2．盛土
3．水田耕作土
4．灰茶褐色土
5．茶褐色土
6．灰茶褐色土
7．暗灰茶褐色土
8．暗茶褐色砂礫
9．暗灰褐色砂礫
10．暗灰褐色砂礫
11．暗灰褐色粘土
12．灰茶褐色土
13．灰茶褐色粘土
14．淡黄褐色粘土

旧水路　現水路

0　2M

第3図　石母田地区遺構実測図



第4図　谷地地区遺構・遺物実測図

トレンチのすぐ南に設定した6トレンチからは東西に走る溝が検出された。また調整区南側に設定した30トレンチでは南北に走る旧畦畔と東西に走る旧畔畦水田跡を検出したが、これらの旧畔畦はうすく堆積していた砂層下よりつくられており、その地盤の層より平安時代の内黒土師器が出土していることから平安時代以降につくられたものであろう。5トレンチと8トレンチの南北に走る溝は条里区画想定線上にのっており、また30トレンチも南北の想定線上にのっていることは大きな成果であろう。

谷地地区から出土した遺物は石母田地区同様きわめて量が少なく、9・20・31・32・34トレンチで陶器破片が若干、30トレンチで旧畔畦の地盤となる層より10数点の土師器破片が出土しただけである。

（鈴木　實夫）

(2) その他の遺跡

条里遺構所在地周辺の日暮、壇ノ越、蝦夷塚および南林正寺遺跡の試掘調査を行った結果いくつかの遺構が検出され、土器片などの遺物も若干出土した。

遺　構

日暮遺跡は前述のように過去の耕作、基盤整備などにより既に消滅したものと考えられる。

壇ノ越遺跡の水田部分に8本のトレンチを設定し調査した。42トレンチで黒褐色の落ち込みを発見し付近を拡張したところ長径5.3m、短径2.75m、深さ10cmの竪穴状の遺構（楕円形）を検出した。遺物は全くなくその性格は不明である。その他のトレンチでも若干の土器片を出土したのみであり、水田下の遺構は既に失なわれたものと考えられるが、付近の微高地の畑地にはその存在が予想される。

蝦夷塚遺跡はその名が示すようにかって墳丘状の遺構が存在していたらしい。調査の結果28トレンチの西端部で溝状の落ち込みを発見したが遺物は検出できなかった。当遺跡も水田下の遺構はすでになく付近の畑地にその存在が予想される。一方、谷部に2基の墳丘状マウンドが存在するがその性格は不明である。また土地の古老によれば山林中にもマウンドが存在するという。

南林正寺遺跡はかって梁川町教育委員会によって発掘調査され、縄文土器、石器などが出土した。それ以前には水田耕作中に石囲炉（コ字形）や堅果類の炭化物などが発見されている。

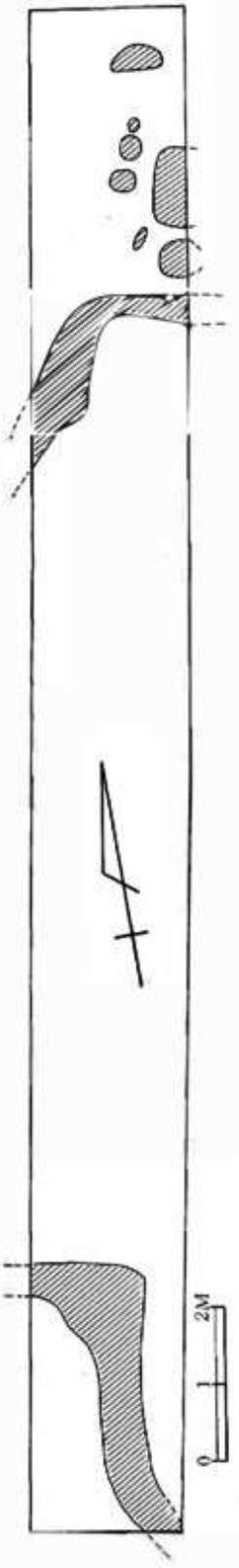
今回は15本のトレンチを設定し調査した。4トレンチで第2層（灰色土）下に溝状遺構2条、土坑3基、ピット4基を検出した。その埋土には茶褐色土のものと灰色粘土のものがあり時期差あるいは性格差が考えられる。9トレンチの東端部にも円形の落ち込みがあったが遺物はほとんどなかった。また、このトレンチ付近にはかって円形の墳丘上のマウンドがあったというが痕跡をとどめない。32トレンチでは地表下50cmで淡黄色土を掘り込んだ幅1.3mの溝状遺構を検出したが遺物は発見されなかった。

16トレンチでは20cm下に黒色土の遺物包含層がありその厚さは50cm以上に達すると推定される。ここからは土錘1点、円盤状土製品1点、縄文土器片が若干出土している。なお、このトレンチは町教委社会教育係の斎藤康一、谷口悟が実測した。18トレンチでは深さ20～50cm（灰青褐色土）に遺物包含層を認め、この下層（灰青褐色土）にも遺物が多く含まれる。

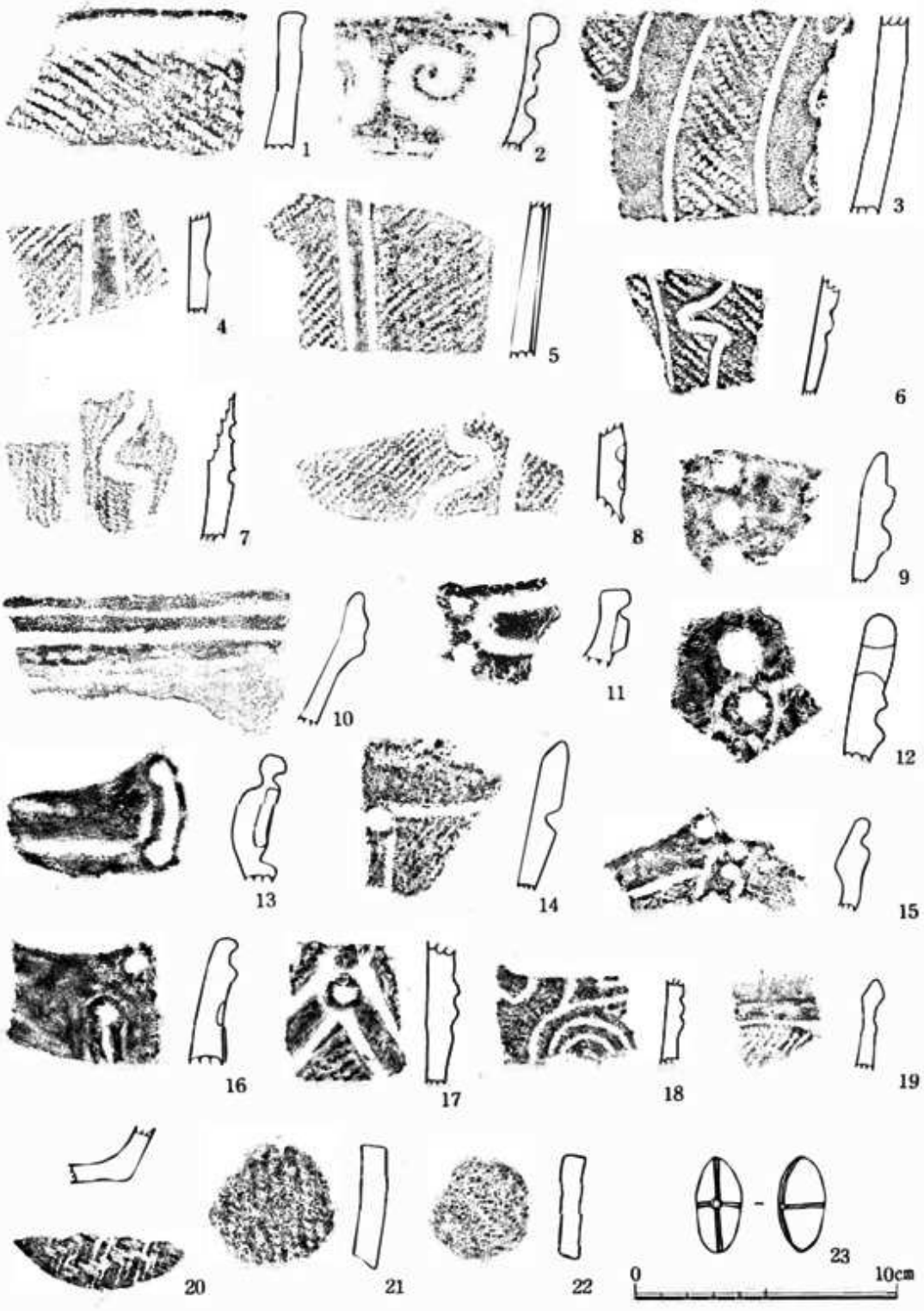
この他、24・28・29の各トレンチからも縄文土器片が多数出土しているが、28トレンチからは円盤状土製品1ケも発見されている。

遺　物

4遺跡の試掘調査によって土師器、須恵器及び縄文土器片などが出土した（第6図）。



第5図　1. 南林正寺遺跡トレンチ配置図　　2. 4トレンチ平面図



第6図　南林正寺遺跡出土の遺物

日暮、壇ノ越、蝦夷塚遺跡の遺物は皆無あるいは土師器や須恵器の小片が若干出土したのみである。

一方、南林正寺遺跡では16・18トレンチを中心にして多くの縄文土器片や石片、土錘、円盤状土製品などが出土した。縄文土器片は文様上から、縄文のみのもの、磨消縄文のもの、無文のもの、粘土貼付による隆起文を有するもの、懸垂文を有するもの、うずまき文を有するものなどに類別できるが、全体としては磨消縄文系の土器が卓越している。

円盤状土製品はいずれも土器片利用によるもので周辺を研磨し整形している。16トレンチ出土のものは4.2cm×3.95cm、28トレンチのそれは5.0cm×4.8cmである。土錘は断面が隋円形で表面には十字形の切り込みが入りその交点に貫孔を有する。長径3.7cm、短径1.75cm、孔直径0.2〜0.3cmを計る。石片は二次的剥離面を若干有するものである。（日下部善己）

Ⅳ　ま　と　め

本年度の調査は、国見町石母田地区、桑折町谷地周辺地区そして梁川町東大枝地区で実施した。その成果は既に述べた通りであり、その概要については以前の調査も含めて第1表に示した。

第1表　伊達西部条里遺構発掘調査の概要

No.	条里遺構名	所在地	検出遺構	備考
1	徳江	伊達郡国見町大字徳江	溝状遺構 6条 (11.13.14.15.18.21の各トレンチ内) 古墓 5基 (23地区内、江戸時代嘉永年間)	昭和50年 12月調査
2	塚野目	伊達郡国見町大字塚野目	溝状遺構 6条 (13.14.24.36.46.58の各トレンチ内) 竪穴住居跡 1棟 (44トレンチ内、仏供田地区、弥生時代)	昭和51年 10月〜11月調査
3	藤田	伊達郡国見町大字藤田	溝跡 10条 (10.17.18.25.29トレンチ内他) 溝状遺構 1条 (25トレンチ内、平安時代)	昭和52年 6月〜7月調査
4	半田	伊達郡桑折町大字北半田	溝跡 2条 (13.15トレンチ内)	昭和52年 7月調査
5	谷地六丁目	伊達郡桑折町大字谷地 〃 国見町大字塚野目	溝跡 3条 (3.11.16トレンチ内)	昭和52年 10月調査
6	石母田	伊達郡国見町大字石母田	溝状遺構 3条 (4.16.21トレンチ内) 旧畦畔(5トレンチ)	昭和53年 6月調査
7	谷地 (上郡・下郡) 伊達崎	伊達郡桑折町大字谷地 同 上郡 同 下郡 同 伊達崎	溝状遺構 4条 (5.6.8.28トレンチ内) 竪穴遺構 4基 (15(2ケ所)、42.14トレンチ内) 水田遺構 (旧畦畔) 1ケ所 (30トレンチ、同拡張区内)	昭和53年 10月調査

(註) 1．条里名は大字名を採っているが正式名称とは考えていない。
2．検出遺構は必ずしも条里関係のみではない。

これらから、現条里地割は大略造成期より受け継がれて来ているが、水路などは幾度かの流路変更があったことが想定されるし、その規模も現水路より大きいものであったようである。そしてその出土土器などから少なくとも平安時代には機能していたと考えられる。

また、谷地地区30トレンチより発見された旧畦畔（水田跡）は条里区画想定線上に載り、その出土土器から平安時代以降と考えられる。この他、微地形及び古地図、地名の調査でも一定程度の成果を上げることが出来た。本調査も来年度で最終年度をむかえる予定であり、可能な限り山積する課題と取り組んで行きたい。　（日下部善己）

〈参 考 文 献〉

○国　見　町　『国見町史』第1巻　昭和52年

○桑折町教育委員会　『桑折町誌』　昭和44年

○梁川町教育委員会　『夏窪遺跡』　昭和53年

○日下部善己・松浦孝夫　「伊達郡梁川町南林正寺遺跡について」『しのぶ考古』第4号　昭和47年

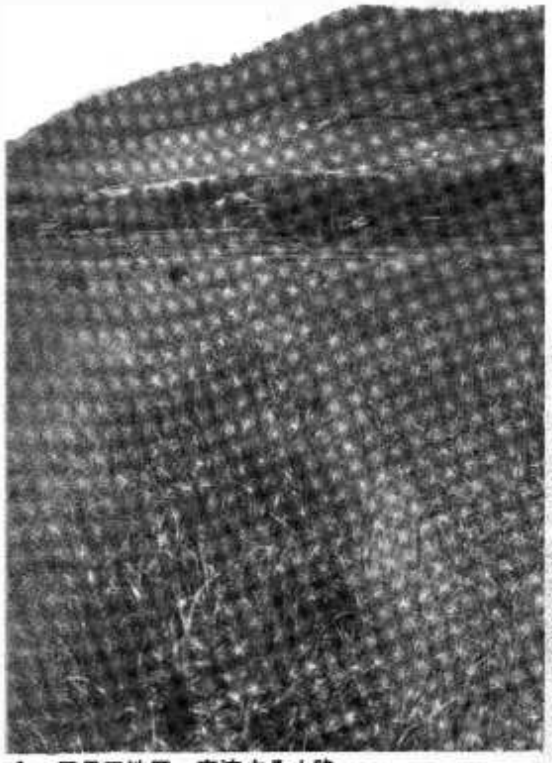
○福島県教育委員会　『伊達西部条里遺構発掘調査概報Ⅰ』　昭和52年

○福島県教育委員会　『伊達西部条里遺構発掘調査概報Ⅱ』　昭和53年

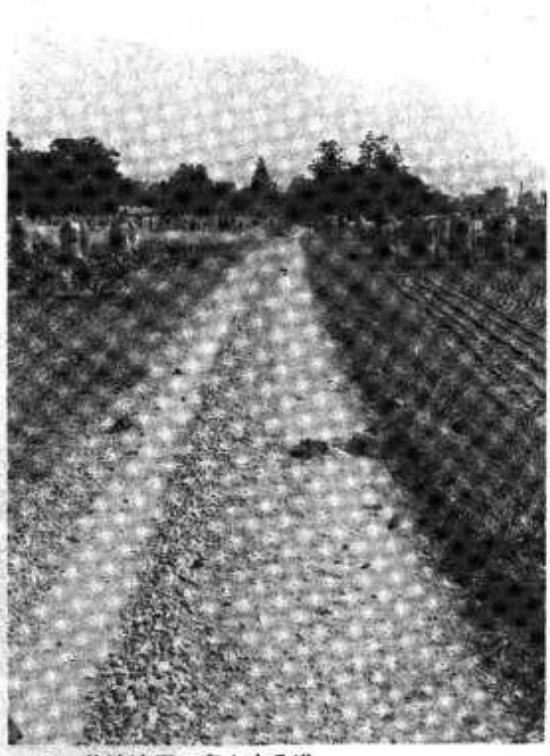
図版 1

1．石 母 田 地 区 航 空 写 真

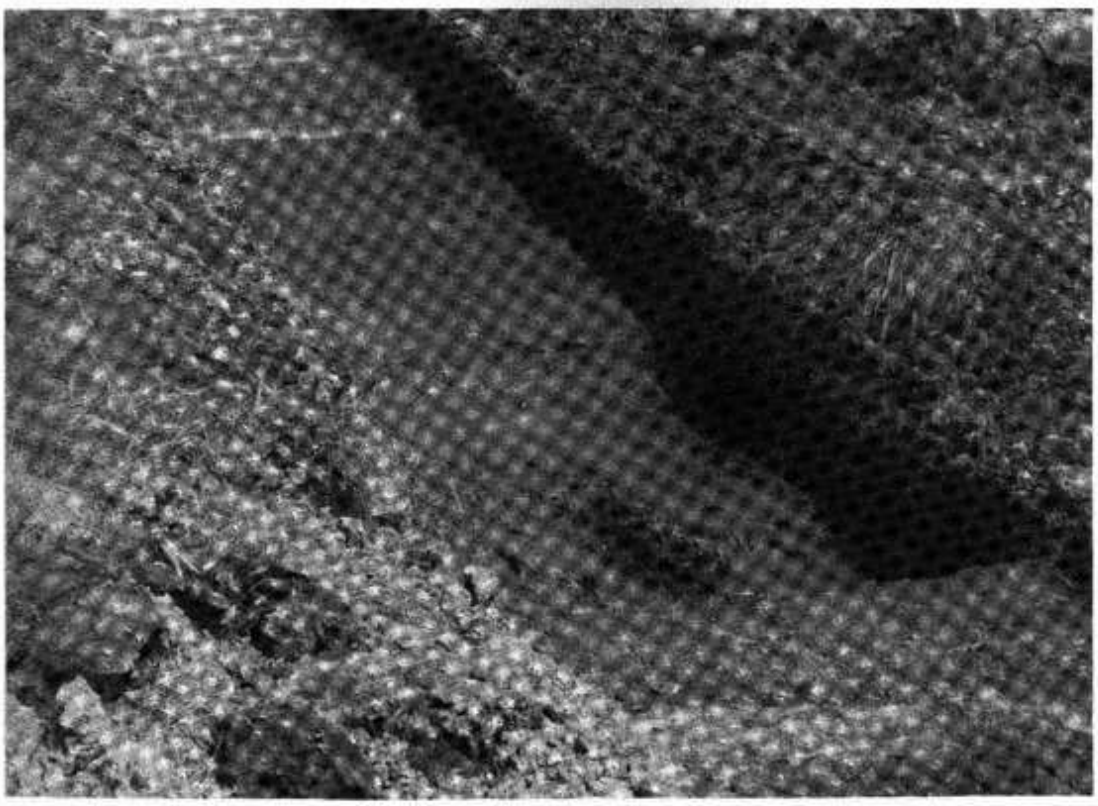
2．谷 地 周 辺 地 区 航 空 写 真



1．石母田地区　東流する水路

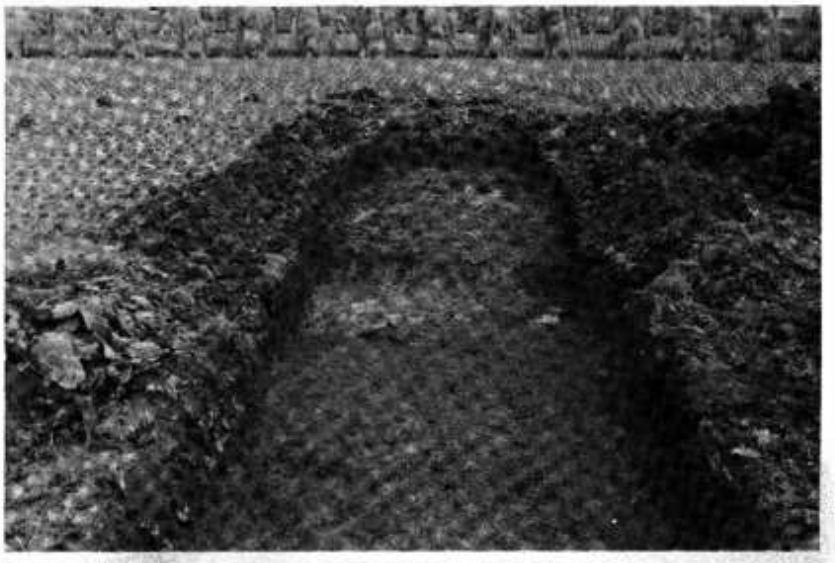


2．谷地地区　東走する道

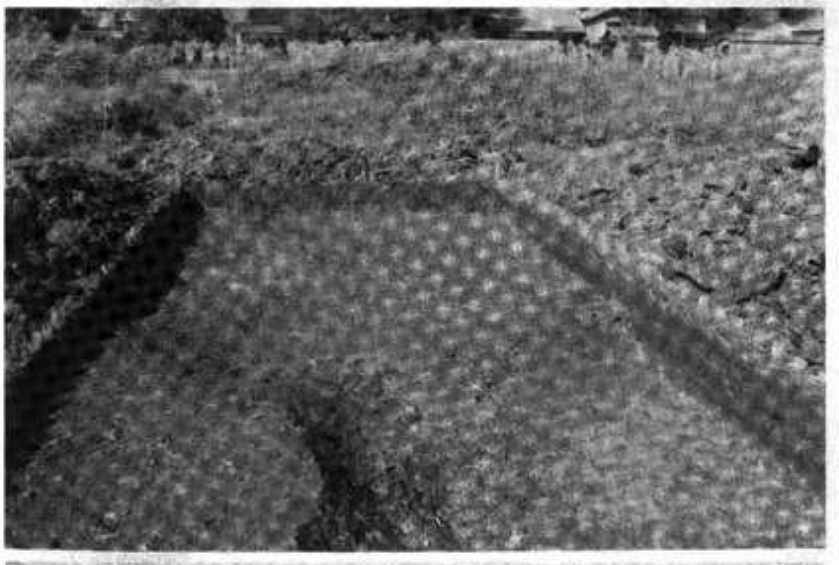


3．石母田地区　16トレンチ検出溝

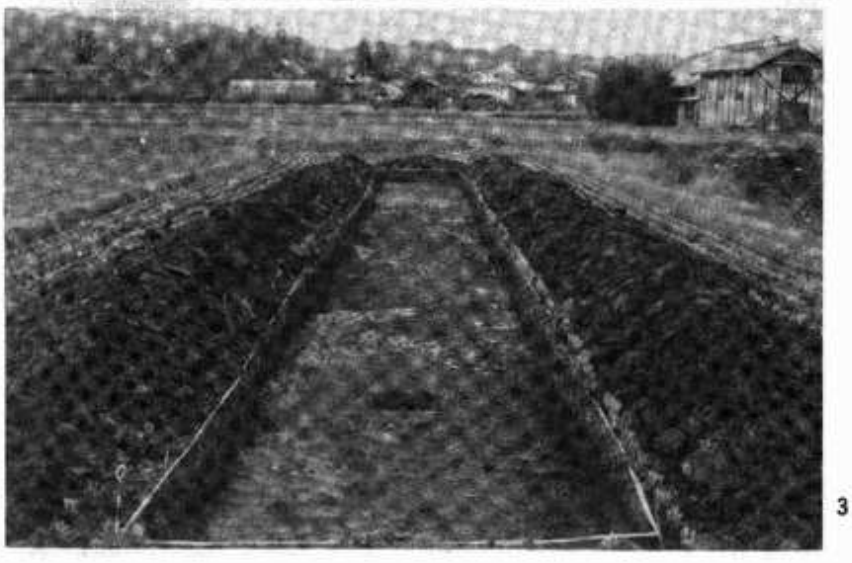
図版 3



1．谷地地区
5トレンチ検出溝



2．谷地地区 30トレンチ検出
旧畦畔、水田跡



3．南林正寺遺跡
4トレンチ検出遺構

福島県文化財調査報告書第70集

伊達西部条里遺構発掘調査概報Ⅲ

昭和54年3月31日　発行

編　集　福島県教育庁文化課

発　行　福島県教育委員会

（〒960）福島市杉妻町2番16号